



FD NEWSLETTER

CENTER FOR
TEACHING AND
LEARNING

INTERNATIONAL
CHRISTIAN
UNIVERSITY

TOKYO, JAPAN

Vol. 26

No. 1

September 2021

目次

1. ミックス式授業の始め方 ... 1
2. Google ドライブを使用した共同でのクラスルームアクティビティ ... 3
3. ミックス式授業を振り返って ... 5
4. 活動報告 春学期の「CTL Brown Bag Lunch & Learn」 ... 6
5. 新企画「ICU における教育のベストプラクティス：成功する国際化」 ... 7

ミックス式授業の始め方



リベラルアーツ英語プログラム (ELA)

スミス, ガイ A.

今回ご紹介する方法は、外部マイクやカメラを使用したミックス式の授業（一部の学生は教員と共に教室から、その他はオンラインで参加）の運営に必要な技術的要件の取り扱いに不安のある先生方の最初の一步にお勧めのものです。この方法では、Zoom、教員と学生用のコンピューターとヘッドセット、Google ドキュメント、および教室のプロジェクターを使用します。

授業の構成は、以下のようなものを想定しています。学生数は 15~30 人が理想ですが、それ以上の人数でも実施可能です。

1. 授業のイントロダクション、オープニングレクチャー両方、またはいずれか一方（15分程度）
2. 小グループでのディスカッションワーク（25~30分程度）
3. 全員でのグループディスカッション（15~20分程度）
4. まとめ（5~10分）

1. 授業のイントロダクション、オープニングレクチャー両方、またはいずれか一方

事前に Zoom への招待状は授業の参加者全員に送りますが、オンラインで参加するグループだけが授業の開始時点から Zoom に接続します。教室内の学生はまだ Zoom に参加しません。

オープニングレクチャーや授業のイントロダクションの実施には、Google スライドや PowerPoint などのプレゼンテーションソフトを使用します。Zoom で参加するグループにはスライドショーを画面共有し、教室のプロジェクターには教員のコンピューター画面を映し出します。このとき、オンラインで参加するグループには各自のコンピューター画面を、教室から参加する学生にはプロジェクターの画面を見てもらいます。教員はコンピューターの前に座り（あるいは立ち）、必要に応じてスライドを切り替えながら講義を進めます。教室から参加する学生は教員の声を直接聞き、オンラインで参加する学生はコンピューターの音声を通して受講します。外部のマイクやカメラは使用しません。

	見るもの	聞くもの
オンラインで参加するグループ	各自のコンピューターの画面	各自のコンピューターの音声 (Zoom 経由)
教室から参加するグループ	教室にあるプロジェクター	教員の声 (直接)

気をつけるべきポイント

- 教員は、内蔵カメラの範囲内に留まるようにします。私の場合は、コンピューターの前に座ることでこれを実現しました。

2. 小グループでのディスカッション

このパートでは、オンラインで参加するグループはブレイクアウトルームを利用します。学生達は共有されている Google ドキュメントを使用し、ブレイクアウトルームごとに学生 1 人に画面共有を行ってもらいます。教室から参加するグループは印刷物を使い、壁に貼られた新型コロナウイルスの対策ガイドラインに従って小グループに分かれて座ります。教員の役割は、オンラインで参加するグループと教室から参加するグループをそれぞれ見て回ることです。

気をつけるべきポイント

- 見て回る時間は、オンラインで参加するグループと教室から参加するグループとの間で均等になるようにします。
- オンラインで参加する人数または教室から参加する人数が 3 人に満たない場合は、以下のような対応が必要になります。
 - a) オンラインでの参加者が 3 人未満の場合 - 教室から参加している学生の一部に Zoom で参加してもらいます（事前に招待状は全員に送信しておきます）。
 - b) 教室からの参加者が 3 人未満の場合 - 教室から参加している学生に Zoom で参加してもらいます。

3. 大人数でのグループ ディスカッション

このパートでは、全員が Zoom に参加し、オンラインで大人数でのディスカッションを行います。

気をつけるべきポイント

- コンピューターのマイクから音声が入り、ハウリングの問題が生じることがあります。これを防ぐには、ヘッドセットが必要です。

4. 次のステップ？

この方法に慣れ、より柔軟で選択肢の多い方法に移行したい場合は、外部マイクやウェブカメラを試してみるのが次のステップとなるでしょう。

この方法については、那須先生のプレゼンテーションをぜひご参考ください。那須先生が採用している方法は、Moodle で公開されている Day-1 初日 (3 月 10 日) のパート 2 の動画で視聴できます。[\(学内限定公開\)](#) 那須先生-「教室で Zoom を使わないための機器セッティング、教室とオンラインの学生で行う同期ディスカッション」

この困難な時期を無事に乗り越えるためにご協力いただいた ICU の先生方、学生の皆さん、職員の皆さん、そして事務部門の皆さん、本当にありがとうございました。

Google ドライブを使用した共同でのクラスルームアクティビティ



心理学・言語学部門

李 勝勲

本稿では、ICU コミュニティの一員が Google プラットフォームを通じて自由に利用できる、Google ドライブの使用例を紹介します。2021 年春学期に開講された、未知の言語を調査するフィールドメソッドコース (LNG391、言語学特別研究 II) において、私は 1 学期を通して Google ドライブの様々な機能を使いました。このコースのティーチングアシスタントでもあるコンサルタントとともに、

学生たちはパキスタン北西部で使われているパシュト一語の、あらゆる文法的な側面を探りました。

このコースには、学生の参加を求めるさまざまな条件があります。まず、音声データを国際音声記号 (IPA) を用いて書き起こす必要があるため、授業で録音した音声に頻繁にアクセスする必要があります。次に、共同して行うワークとして 3 本の記述レポートを書き、最後に独自のアイデアを盛り込んだ期末レポートを書かなければなりません。これらの授業の要件を満たすには、リソースの共有や共同作業環境が必要になります。

このような様々な要素をコース管理に組み込むため、私は Google ドライブを使用することにしました。これにより、様々なアプリケーションを用いて教員が学生とフォルダーを共有することができるようになりました。ドライブには、学生が必要なときにいつでもダウンロードできる、すべての音声ファイルが入ったフォルダーがあります。図 1 に示すように、調査セッションで話者から得たデータの整理には、Google スプレッドシートを使用しました。クラスの全員がこのシートの編集権限を持ち、クラスで行ったディスカッションの情報をすぐに更新していきました。

ID	Gloss&info	ID	IPA-plural	Gloss	Swadesh	IPA-singular	Gloss
NPL001-PBU001-1	SWD057, zanawár, animal	NPL001	zanawár	animals	SWD057	zanawár	animal
NPL001-PBU001-2	SWD057, zanawár, animal	NPL001	zanawár	animals	SWD057	zanawár	animal
NPL001-PBU001-3	SWD057, zanawár, animal	NPL001	zanawár	animals	SWD057	zanawár	animal
NPL002-PBU001-1	SWD058, mahé, fish	NPL002	majān	fish (pl)	SWD058	mahé	fish
NPL002-PBU001-2	SWD058, mahé, fish	NPL002	majān	fish (pl)	SWD058	mahé	fish
NPL002-PBU001-3	SWD058, mahé, fish	NPL002	majān	fish (pl)	SWD058	mahé	fish
NPL003-PBU001-1	SWD059, k'ábe, fish	NPL003	k'ábán	fish (pl)	SWD059	k'ábo	fish
NPL003-PBU001-2	SWD059, k'ábe, fish	NPL003	k'ábán	fish (pl)	SWD059	k'ábo	fish
NPL003-PBU001-3	SWD059, k'ábe, fish	NPL003	k'ábán	fish (pl)	SWD059	k'ábo	fish
NPL004-PBU001-1	SWD060, mansá, bird (male)	NPL004	mansán	birds (male)	SWD060	marxó	bird (male)
NPL004-PBU001-2	SWD060, mansá, bird (male)	NPL004	mansán	birds (male)	SWD060	marxó	bird (male)
NPL004-PBU001-3	SWD060, mansá, bird (male)	NPL004	mansán	birds (male)	SWD060	marxó	bird (male)
NPL005-PBU001-1	SWD061, mansé, bird (female)	NPL005	mansán	birds (female)	SWD061	marxé	bird (female)
NPL005-PBU001-2	SWD061, mansé, bird (female)	NPL005	mansán	birds (female)	SWD061	marxé	bird (female)
NPL005-PBU001-3	SWD061, mansé, bird (female)	NPL005	mansán	birds (female)	SWD061	marxé	bird (female)
NPL006-PBU001-1	SWD062, spe, dog	NPL006	spi	dogs	SWD062	spe	dog
NPL006-PBU001-2	SWD062, spe, dog	NPL006	spi	dogs	SWD062	spe	dog
NPL006-PBU001-3	SWD062, spe, dog	NPL006	spi	dogs	SWD062	spe	dog

図 1. Google スプレッドシートのファイルのスクリーンショット

Google ドキュメントは、図 2 のように学生が直接ドキュメントを編集できるよう、記述レポート用に作成されています。編集作業を通して、学生が寄せた質問やコメントに対して、講師が回答するようになっています。学生達にとって記述レポートの作成は簡単な作業ではありませんでしたが、Google ドキュメントの通知機能により、最終稿を提出する前の早い段階でもフィードバックを行うことができました。さらに、Google ドキュメントを使用することで、メールでの Word ファイルのやりとりを減らすことができたのは予想外のメリットでした

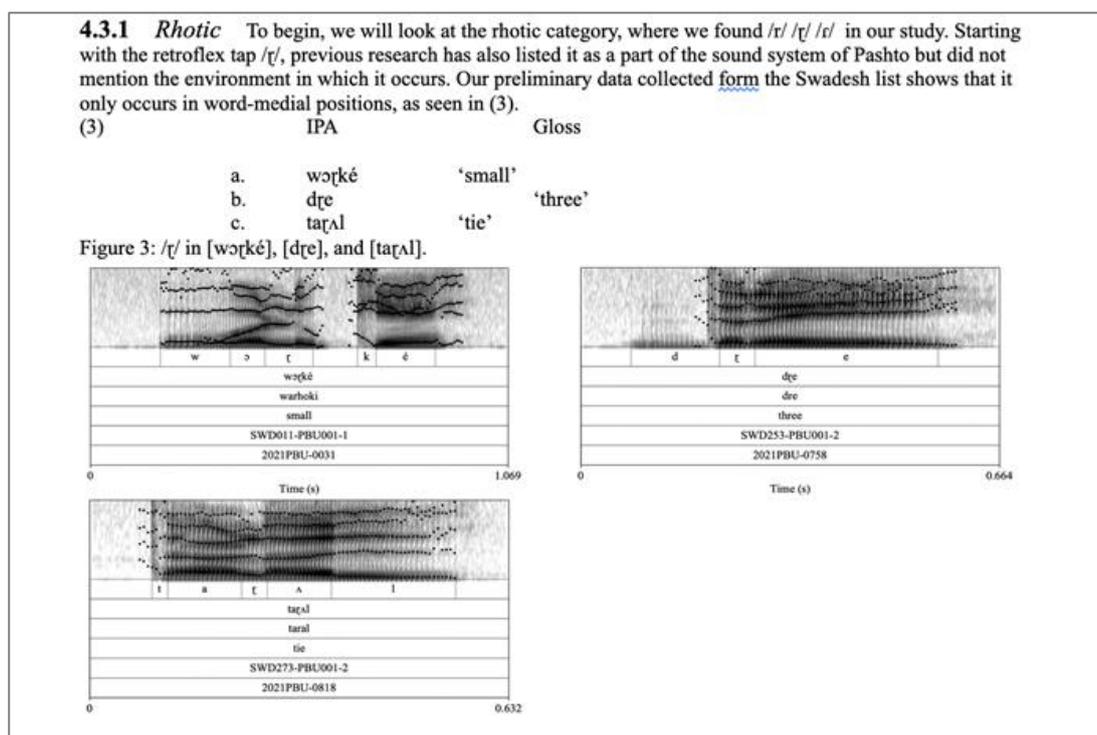


図 2. 学生が共同で作成したパシュト一語の子音についての記述レポートを示す Google ドキュメントのスクリーンショット

これまでの私の授業では、Google ドライブは積極的には使用していませんでした。共同作業を行う必要がある際に様々なツールを活用するように提案し、ツールの一つとして使われていただけでした。しかし Google アプリケーションを積極的に取り入れて授業の様々な要素を管理することで、良い効果を得ることができました。学生からは、音声ファイルを含むすべての教材や、授業の課題で使用される Google ドキュメントが一箇所に集まっているので、共同作業がしやすいという意見を貰っています。

以上のことから、Google ドライブをアクティブラーニングのツールとして使用することは、共同作業に使用する教材へのアクセスを必要とする授業や、授業中または授業間に他の学生と常に共有されるクラス内アクティビティが必要な授業にとっては有益であると考えられます。

ミックス式授業を振り返って

社会・文化・メディア部門 ボンディー, クリストファー

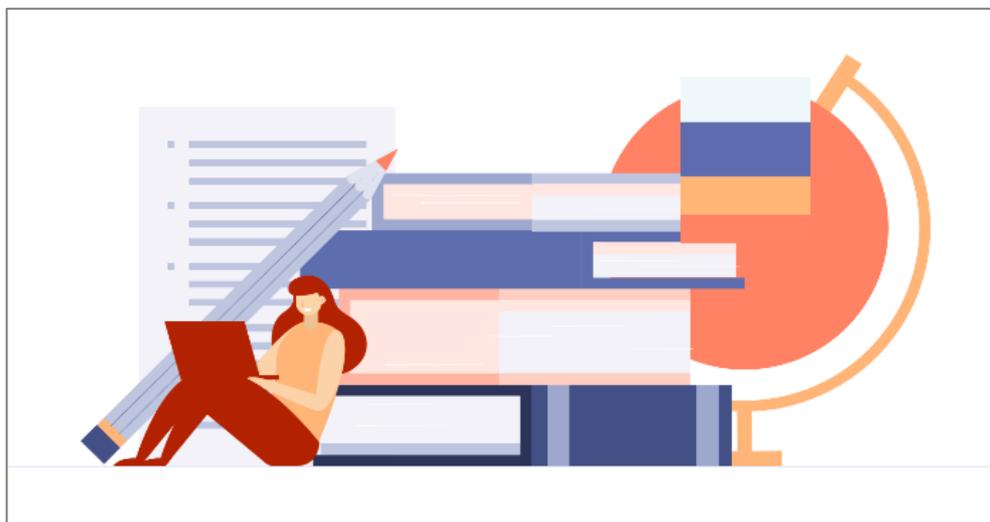
コンピューター画面に向かって授業を行う長い 1 年を経験し、教室が非常に恋しくなった私は、授業を「ミックス式」の実施方法で試してみることにしました。本稿では、私の振り返りや学生たちから貰った感想をご紹介します。ただし、これはあくまでもミックス式授業のうちのある一つのタイプをおこなった、一例に過ぎないので、ミックス式授業全体に対する肯定や否定とは捉えないようにしてください。

春学期に、私は上級の方法論のクラスをミックス式授業で行いました。学期の最初の 2 週間は対面授業を行っており、学期中にも数回ほど対面授業を行う予定でしたが、新たな緊急事態宣言が発令されたため、これは変更しました。大学側からは対面授業を行っても良いとの連絡がありましたが、それでは学生に正しいメッセージが伝わらないと考え、すべてをオンラインに移行しました。

私が感じたミックス式授業の強みは、何よりもまず、教室にいる学生のエネルギーを直に感じることができるという点です。学生たちは、お互いを「知れ

る」ことでコミュニケーションが取りやすくなったと述べています。しかし、もちろん弱点もありました。ある学生からは、「正直なところ、ミックス式授業のメリットはあまり感じられませんでした。オンライン授業よりも有益だったとは思えません」とのコメントを貰っています。この点については、別の学生からも「どのミックス式授業も、オンラインでも実施できたように思えました」との意見がありました。

総合的に、私のミックス式授業に対する印象は、一言で言えば「場合による」です。教室にいて活発なエネルギーを感じることができましたが、国外から参加している学生もいたため、ディスカッションをするには不便でした。一部の学生がオンラインを併用して参加しなければならない場合や、授業の種類や学生との関わり方によっては、メリットよりも課題の方が多くなるように思えます。今後、今学期もミックス式を試してみるつもりですが、正直なところ、どれだけ上手くいくかはわかりません。しかし、将来的（ポストコロナの世界）には、このようなアプローチを定期的に採用することが、教育的に興味深いツールになるのではないかと考えています。



活動報告 春学期の「CTL Brown Bag Lunch & Learn」

今年度も、引き続き Brown Bag Lunch & Learn (BBL&L) を開催します。このシリーズは、月に1回、堅苦しくない雰囲気の中で教員がお互いに学びあうための集まりです。BBL&L は、教員間でスキルや専門知識を積極的に共有するだけでなく、良いことも悪いことも含めてお互いの教室での経験から学び、プログラムやデパートメントを超えた交流を行い、教職員間で情報を共有できる機会となることを目指しています。

4月19日実施 (第8回)

テーマ：授業観察

ファシリテーター：リベラルアーツ英語プログラム (ELA) / CTL 運営委員会委員 深尾暁子先生

新年度は、4月19日に、リベラルアーツ英語プログラム (ELA) の深尾暁子先生による、授業観察をテーマにした回でスタートしました。4月に着任したばかりの先生方3名を含む約10名の参加者と活発な意見交換が行われ、CTL 事務室の隣に新しくできたFD ラウンジの素敵なオープニングイベントにもなりました。

5月10日実施 (第9回)

テーマ：学生のメンタルヘルスについて

ファシリテーター：ICU カウンセリングセンター 寺島吉彦センター長

授業や窓口対応で気になる学生に遭遇した際に、どのような対応をしたらよいのか戸惑った経験はありませんか？問題を抱えた学生への対応についてカウンセリングセンターの寺島吉彦センター長がお話ししてくれました。

学生が抱えがちな問題、相談を受ける側の心構えなどをお話しいただいた後、教職員から質疑応答を受け付けました。当初10名程度の参加者を予定していましたが、教職員約20名が参加を希望し、急遽広い会議室に場所を変えての開催となりました。長

引くコロナ禍において、特に関心の高さがうかがえました。

(動画：[ICU 教職員のみ閲覧可能](#))

5月24日実施 (第10回)

テーマ：新入生の健康～PEの実技・講義クラスの様子から～

ファシリテーター：保健体育プログラム/CTL 運営委員会委員 高梨美奈先生

1年生を中心に必修で開講している保健体育プログラム (HPE) での新入生の様子を、高梨先生が紹介してくれました。

受講生にとってPEは日本語でクラスメイトと話せる貴重な機会ということもあり、Zoomのブレイクアウトルームになると空いた時間に他の授業に関する情報交換などコミュニケーションをとる学生がいる、ネット依存や体力低下に不安もあるなどのお話がありました。

(動画：[ICU 教職員のみ閲覧可能](#))



新企画「ICUにおける教育のベストプラクティス：成功する国際化 Successful Internationalization: Educational Best Practices at ICU」

学修・教育センターはFDプログラムの一環として、スーパーグローバル大学創成推進室と共同で「教育のベスト・プラクティス」をテーマにした双方向参加型セッションをオンライン開催しました。

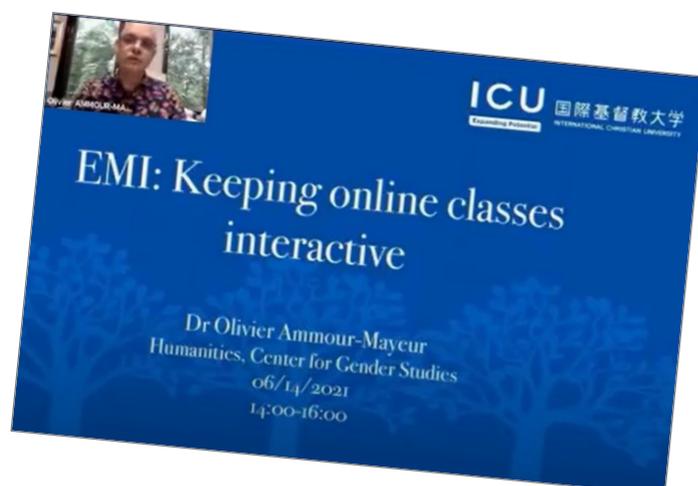
第1回目は2021年6月14日にオリビエ・アムール=マヤール准教授がホストを務め、“EMI (English as a Medium of Instruction) : Keeping Online Classes Interactive”～英語「で」教えるインタラクティブなオンライン授業～と題して開催しました。外部からは76名が登録、当日参加者は50名ほどで、EMIの概念理解や具体的なクラスアクティビティの進め方が紹介されました。また、最後まで残った参加者で予定されていた時間を30分ほど超えて活発な意見交換が行われ、単なる教授手法に留まらず、日本人学生の多いクラスで英語でアクティブな授業を実現する上での苦労などが率直に共有されました。

(動画：[ICU教職員のみ閲覧可能](#))

今後の予定としては、10月18日に小澤伊久美課程上級准教授が「EMIからJMI (Japanese-Medium Instruction：日本語を媒介とした授業) ～日本の高等教育にEMIの教授法を応用する試みとして～」と題して、日本の高等教育においてJMIを実践するという事は具体的にどういう事か、その意義は何かを参加者と考えます。

また、11月15日に岡村秀樹教授が「学生が行う子供のための科学教室と科学教育の意義」をテーマに、科学教室に関わる学生達自身の成長や、子供にとって（そして一般の方々にとって）の科学教育の目的、日本社会という文脈の中での科学教育の必要性について議論する予定です。

関連ウェブサイト：<https://sites.google.com/info.icu.ac.jp/icuopenfd-bestpractices/home?authuser=0>



新任教員 FD プログラム (NFDP)

4月7日に2021年度「New Faculty Development Program (NFDP)」の春のセッションを行いました。新任教員FDプログラムであるNFDPは2017年度に開始し、今年で5年目となります。

NFDPのメインプログラムは、その年の4月と9月に着任する教員に向けた、秋学期週1回のセッションですが、4月に着任したばかりの先生方に向けて春学期開講の前に、学修・教育センター(CTL)と特別学修支援の機能についての紹介をCTLセンター長及び副センター長が行いました。

9名が参加し、プレゼンテーション後の座談会では、学生学修支援のケース毎の対応についての質問や、「これからICUで教育活動を始める上で学修支援体制が心強い」などの発言がありました。その後大学内の施設を紹介し、2時間程度で終了しました。

発行：国際基督教大学 学修・教育センター
Published by Center for Teaching and Learning
International Christian University

1F, Othmer Library, 3-10-2 Osawa, Mitaka-shi, Tokyo 181-8585 Japan
Phone: (0422) 33-3365 Email: ctl@icu.ac.jp
